

2023年度 障害児者一時預かり「サポートハウスわにの家」事業報告

1. 幼児小学生の活動（第2ハウス）

わにの家が障がいのある幼児と小学生のための支援を始めてから21年が経過しました。2023年度わにの家の運営は、利用者減少傾向は続いているものの、例年と比べ特に大きい変化はなく和やかに1年間の活動を終えました。

(1) 活動の様子

3年間猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、2024年度は散発的な発症はあったもののほぼ収まりました。やりたいことが普通にできるありがたさをかみしめた一年でした。子どもたちの屋外の活動は往復徒歩で行くことができる平和公園が中心ですが、等々力公園まで徒歩で行き、帰りはバスを使うなど公共交通機関の利用にもチャレンジしました。また、車で太尾見晴らしの丘公園に行ったりしました。太尾見晴らしの丘公園は横浜市ですが、広い草っ原で野球やサッカー等自由にできるので使い勝手がよい公園です。今年度は集団活動が苦手というお子さんが多かったのですが、スタッフを交えて一緒に遊べる雰囲気作りをしました。

昨年度同様、夏はリハビリテーションセンタープールでたっぷり遊びました。滑りやすく危険だった更衣室の床は改善され、事業所ごとの割り当てスペースで自由に楽しむことができました。団体利用は割り当て日があり、一部のお子さんはほとんど利用できず少し残念でしたが、幼児さんはたっぷり遊ぶことができました。清潔で広々したプールでとびっきりの笑顔で遊ぶお子さんの姿は印象的でした。

室内での活動は、日々の消毒換気に気を配りながら室内装飾づくりや夏のかき氷作り、グループで遊ぶトランプのババ抜き、七並べなども楽しみました。自分一人では参加できないトランプ遊びやゲームも一人一人にスタッフがついているので、子どもの状態に応じた支援

の仕方に参加することができ、嬉しい気持ちになって終了することができるのは、わにの家ならではの取り組みだと思います。その様子を連絡帳でお知らせするので、家族でもチャレンジしみんなで楽しめたと嬉しい便りが届きました。

お帰りの会も楽しみな活動の一つです。司会も交代制で当番になると名前を呼ぶことができなくてもスタッフが名前を耳元でささやいてあげると指さしたり、視線を向けたりして仲間を意識しているんだなと嬉しくなります。呼ばれる人も自分が呼ばれるのを期待して待っている人、ちょっと恥ずかしく



てドアの陰から返事をする人様々ですが、いつの間にかみんな集まれるようになりスタッフのギター伴奏で一曲という日もありました。

利用しているお子さんたちの中には、「学校を卒業したらわにの家のスタッフになるからね」と言ってくれる人もいて、スタッフは期待しています。

(冬の日 お帰りの会)

☆ 休日活動

月2～3回行っている休日活動は、わにの家開室以来維持し好評です。放課後の活動時間は短いので思い切った活動や遠出は難しいのですが、休日はゆったり活動ができます。少し遠い三ツ池公園や夢パーク、多摩川台公園にも出掛けました。さらに学校の長期休暇の間は週1回休日活動と同じ時間帯で開室し社会生活の体験を広げる活動を提供しました。スタッフと利用する児童1対1の配置なのでブックオフめぐりなどを希望する子どもの願いも叶えてあげることができました。わにの家での新しい体験を家庭に帰ってから嬉しそうに話すので、後日本人に案内してもらって家族で出かけてみましたという報告もいただきました。

☆ 新しい試み



2023年度の新しい試みとして「たのしい! ボールあそび教室」に参加しました。利用者の保護者から NTT 東日本サステナビリティ推進室が共生社会の実現に向けた取り組みとして、一緒に楽しむスポーツレクリエーションを企画しているのでわにの家に協力してくれないかというお話が

ありました。スタッフで検討し安全で楽しめそうということで全面協力することにしました。特別企画なので通常の「日中一時」の制度は使わず希望者の自主的参加としましたが、会場の確保、参加者への呼びかけ、お子さんをよく知っているスタッフの参加、当日の保険はわになろう会で担当しました。

1月13日(土曜日)川崎市中部リハビリテーションセンター井田体育館を会場に開催されたボール遊びは、認定 NPO 法人トラッソスの指導員の指導のもと、準備体操を兼ねたボール遊び、エアクッションのミニサッカーセットを使ったサッカーゲームなどを楽しみました。参加児童は6名で家族やわにのスタッフ、NTT 関係者など大人の方がたくさんで、童心に返って遊んだ感もありましたが楽しい企画でした。

☆ 卒業を祝う会

2023年度、六年生3名。22年度は10名で福祉バス利用に比べ、こじんまりとしたお別れ遠足と卒業を祝う会でした。公共交通機関を利用し、男の子たちが大好きな巨大ガンダムが展示してあるお台場に行きました。車椅子を利用しているお子さんにとって、切符の購入や乗り換え、橋上駅舎から目的地への移動はまだまだバリアが多いこと、休日の観光地の人出の多さ、入場までの待ち時間の長さなど、課題がいろいろ見えた遠足だったにもかかわらず、楽しめたというお子さんの感想もあり良かったです。

祝う会では、利用し始めてから9年間の思い出がぎっしり詰まったアルバムをいつものように渡すことができ、その成長ぶりに感動ひとしおでした。

(2) 保護者との交流

「保護者会」や家族参加の「わにっこフェスタ」なども、一緒に子育てする大切な場でしたが、多人数の集まりの制限、学校施設の開放中止などで、今年度も大きい行事は中止せざるを得ませんでした。

個人面談は、希望されるご家庭には前期・後期実施することが出来ました。進路に関わる事、本人の課題等面談内容は多岐にわたりました。話し合いの時間がゆっくりとれたことは良かったと思います。また、日々お子さんの成長や環境の変化に起因して生じる課題で保護者から相談があったときには随時面談しました。日々の連絡帳にも目を通し、気持ちに共感する言葉を添えたり課題解決のヒントを提案したりするなど一緒にお子さんの成長を見守っているということを伝えました。さらに毎月発行の「わにっこ通信」でご家庭の取り組み等をたくさん紹介し、ご家庭同士の繋がりを保つようにしました。

☆ 2023年度の実績

<登録メンバー（3月末・含成人）>

☆幼児9名 ☆小学生25名 ☆中学生1名 ☆成人1名 計36名

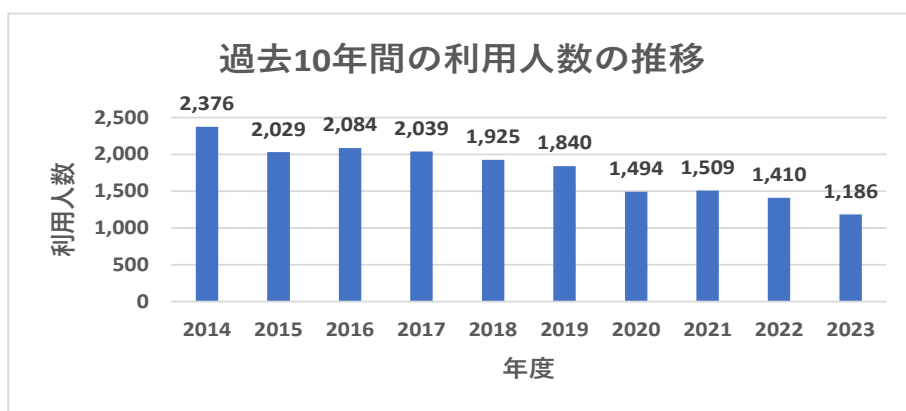
在住区内訳	幸 区	中原区	高津区	宮前区	合 計
	3	26	6	1	36

<利用者数>

利用者延人数 2023年度 1,059名（2022年度比 242名減）

*利用者は登録者、延べ利用者数共年々減少。2022年度卒業した10名の穴は埋まらないままで、単年度決算では赤字経営が続いています。利用者減少の要因は曜日契約で学校卒業まで安定的に利用できる放課後等デイサービス事業所が急増したことによると思われる

す。学校卒業まで対応してほしいと希望されるご家庭も多いのですが、現在できるわにの家の力量で無理をせず、利用者と支援スタッフが1対1で丁寧に係わり、本人に即した課題で活動できるわにの家を由とする本人とその家族の応援を後ろ盾に事業を継続しています。



< 日常の活動内容 >

☆幼児（10時～12時30分）

月・火・水・金と月2回の土曜日
<ul style="list-style-type: none"> ・10時～ 室内での自由遊び ・11時～ 散歩や近隣の公園 ・12時20分 おかえりの会 (手遊び・本の読み聞かせ等) <p>*土曜日は幼児のみの利用日。弁当持参。 活動終了13時30分。</p>

☆小学生（放課後～17時）

月～金曜日（火曜日～18時）
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後～16時 自由外遊び 等々力公園・平和公園・多摩川台公園 橘公園等 ・16時～ おやつと室内遊び ・16時45分～ おかえりの会 (活動の報告と帰りの歌など)

☆小学生休日・夏休みの全日活動の日

10時～16時（昼食持参）

活動内容 その都度利用者の要望を聞きながら計画。遠方の公園やプール・ログハウスなど。

<スタッフの体制>

登録15名（内 青年担当 1名、事務専任 1名）

* ほぼ一週間継続で勤務しているスタッフ3名。その他は曜日限定で勤務。

* 研修の充実

2023年度は「虐待と思われる対応」についての研修をしたほか、ZOOM開催の研修会も増えたので、関連の研修会・講演などは紹介するようにしました。年間5回開催しているスタッフ会議では担当しているお子さんの課題への対応について意見交換したり、成長を踏まえたスタッフの対応の仕方等も検討したりしました。また、日常的には活動開始前や終了後に日々の活動の振り返りをしました。活動で担当した児童にヒットしたかわり方、注意すべき事柄などを記入し個別ファイルに挟み全員に伝えるようにしました。お迎えの保護者とスタッフの情報交換も貴重な研修の機会でした。

* 待遇改善

毎年、最賃法により時給を改定しているほか、対応により配慮が必要なお子さんを担当しているスタッフには加算をつける等若干の待遇改善を図っています。利用児童の減少に伴う収入減にもかかわらず、スタッフは子どもと触れ合う喜びを糧に仕事を続けてくれています。スタッフの生活保障が難しいわにの家ですが、今年度もスタッフの熱意に支えられて温かい雰囲気の中で無事一年が過ぎました。

<2024年度に向けて>

2020年2月頃から始まった新型コロナウイルス感染症は5月より五類扱いとなることで、感染予防対策は個々の事業所に任されることとなりました。活動範囲は格段に広まっていくと思います。利用者の状況は、幼児の新規申込2名。新1年生は4名。登録利用者数はほぼ前年度と同様です。例年4月は利用者が少なくその後徐々に増えていきますが、スタッフの就労保障にはほど遠い状態です。送迎希望が多いので、わになろう会が所有している車2台はフル回転です。送迎車の運転ができるスタッフの確保が難しく遠距離の送迎は過重負担になりつつあります。

2024年度も赤字経営は確実ですができるだけ経費節減を図りながら運営等について大幅に変える予定はありません。どんな障がいの方にも快適な居場所、大好きな居場所になるようスタッフの創意を生かしながら事業を進めていきたいと思います。

ただ、今後の見通しについては、2024年度も卒室する児童が多いので、赤字は更に増え

る見込みで、今後の事業継続について検討をしなければならない状況です。

2. 成人の活動（第1ハウス 1階）

< 2023年度の活動 >

2021年度後半から通学支援を利用して隔日で登校することができるようになった高校生の本人の要望で、障害児者一時預かりの活動として学習支援を始めました。その後体調不良で活動休止期間があり、本人も学校は卒業しましたが体調や家庭事情があるため在宅となり、諸般の事情で週一回の預かりを再開しました。スタッフが本人のおしゃべりの付き合いをして気持ちを共感したり、短時間ですがシュレッダー作業、封筒の宛名貼りなどの事業所の軽作業を手伝ったり、一緒に食材を購入して軽食を作ったりするなど生活自立や就労に向けた活動を提供しました。

< 2024年度に向けて >

2023年度の延長で利用している成人は、4月より日中活動の事業所が決まりました。ただし、事業所の事情により週3回の受け入れです。本人の希望もあり週1回はわにの家を利用しています。

わになろう会発足当初の理念の通り、地域の障がいのある方の緊急な要望に対して制度の運用範囲で応じる体制は維持していきたいと考えています。

